

1975. 8. 27 日 女 持



最近「油断」をいふ本が静かなブームを呼んでいる。これは、近い将来、燃料危機が訪れて、油が断たれるであろうことは、さきの石油ショックを味わされた不安から、実感をもちここの本に目を注がせているのかも知れない。私はその関心を「パグウォッシュ」にも向けてほしいと思う。「パグウォッシュ・シンポジウム」は、世界各地で開催されている原子エネルギーの利用、核兵器の管理、科学者の社会的責任について討論されている会議、エネルギー問題、兵に平和を奨める世界

パグウォッシュ精神

界の英知がここにあり、為政者はもちろん、台所を預かる私たちが主婦も、平和運動にならざる方たちも注目してはなくてはならないと思う。

二十日付復時評によると、長崎原爆投下を自撃した鶴岡操のアメリカ記者は、詳細なレポートの中で、原爆下の日本人については「ただ一カ所『まさに死のうらみ』にだけ、だれが死ななと同情を感じようか。真珠湾とパタゴン死の行進を思うなら何の同情も抱くはずがない」とだけ言及したそうであるが、時評記者氏は

「戦争の狂気がなせる業なのでしようか」と嘆息しておられる。私は折しもこの長崎原爆の被爆者林京子さんの小説「祭りの場」を読んだ直後であっただけに、時評欄を手にしたまま、しばし、呆然としました。

戦争の罪悪については、日本人も諷刺にその批判を受けなければならぬが、アメリカの人々にも、この「祭りの場」を読んでもらって、改めて人種を越えた次元であらゆる人々が人間存在の畏敬について考え直さなければ不幸はまた繰り返されると思った。

吹田市 船田早苗 (51) 主婦

c092-17-043